

# 炉開き

2025年11月10日

Y会員宅にて

掛け軸は大徳寺黄梅院435世大綱和尚筆



「瓢、瓢、汝は 真に瓜の位もなく

西瓜の暑をはらう徳もなく

しかれど気の軽く、中むなしくて無欲なれば

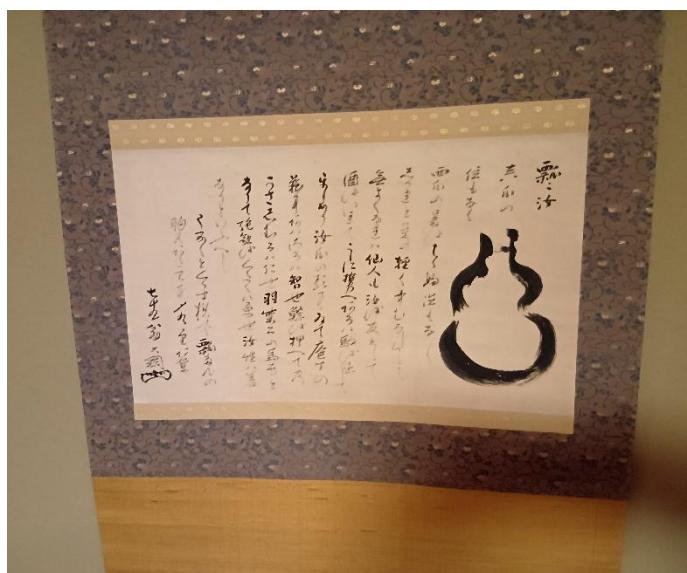
仙人も汝を友として、酒をいれて腰に携え、

あるときは 駒を出して楽しめり

汝、瓜の類にいて、包丁の難に会わざるは智なり

羽柴公の馬印となりて 強敵を碎くは勇なり

うかうかと暮らすようでも胸のあたりにしまりあり」



「床の間の軸に黒々瓢の書」

(俳句はKさん詠)

「大宗匠逝きしこの年炉を開く」



「おそ秋のお棗一つ棚の上」

↑湿（しめ）し灰をまいています。

夏の暑い時に、灰にほうじ茶などを加えて湿らせた灰を作り、それを炉にいれると対流が起こりやすくなり、炭がおこりやすくなります。

←白い灰の上の少し濃い色の灰が湿し灰です。





「しずしずと進むお謡い紅葉狩」



「練りきりの切りこみ深き秋の色」

いつものことながら T さんの見事な練りきり！

そして、今回はお茶室を提供してくださった Y さんも瓢箪の練りきりを！

T さん、第一の弟子！と大喜び！

リビングルームでもお茶をたてていただきました。



お手作りのお菓子とお抹茶をいただいたあと、お庭ではTさんのお庭になった柿の実を  
みなさんに分けていただきました。

「庭先に籠いっぱいの柿盛られ」

「集まりて秋のひと日を明かるうす」

